

令和3年度 南信州民俗芸能継承推進協議会 総会 会議録

日時：令和3年5月24日（月）13:30～15:00

場所：南信州広域連合事務センター201・202 会議室

出席者：別紙のとおり

1 協議事項

(1) 第1号議案 役員の選任

会長：平松 三武さん（和合の念仏踊り 会長）

副会長：清水 秀樹さん（広域連合総務・文教・消防部会長（売木村長））

監事：代田 昭久さん（飯伊市町村教育委員会連絡協議会 会長（飯田市教育長））

以上のように選出された。

(2) その他

第2号議案から第5号議案について、全て原案のとおり承認された。

2 報告「コロナ禍における南信州の民俗芸能について」

<櫻井アドバイザー、飯田市美術博物館 近藤学芸員>

伊那民俗 124 号の中で、昨年のコロナ禍での南信州の民俗芸能の対応についてまとめた。
それについて説明する。

<飯田市美術博物館 近藤学芸員>

遠山の霜月祭りと天龍村の霜月神楽は、例年どおりに行う地区、一部のみを行う地区、
宮司による神事のみを行う地区など、地区により異なる対応となった。

一方で、伊那民俗 124 号の表紙の写真にもあるように、遠山中学校の文化祭で行われて
いる郷土の舞は実施された。遠山には郷土の舞がきっかけでお祭りに関わる若い人が出
てきており、コロナ禍であっても郷土の舞が行われたことには大きな意味があると思う。

<櫻井アドバイザー>

全体として中止になったところが多く、開催したところでも、地区外からの参加を禁止
するなどの措置を取ったところがあった。どの祭りも、その判断には大変苦慮したと聞
いている。

新野の雪祭りは、方針が二転三転したうえで実施されたが、本祭の前日になり、急遽中
止となり、皆さん非常に落胆したと聞いている。

新野の盆踊りは中止となったが、有志の方のみで踊りが行われた。

和合の念仏踊りは、住民の方に限定し、内容も大幅に縮小して実施された。

向方と大河内のかけ踊りは例年どおり、坂部と下栗の掛け踊り、泰阜温田の樽木踊りは
中止となった。

黒田人形、今田人形、早稲田人形、大鹿歌舞伎、下條歌舞伎、平谷歌舞伎は何れも中止となった。

獅子舞もほとんどが中止となった。特に大型の練り獅子の場合は、幌の中に大勢が入るということ、また春に行われるために都市からの帰省者が多いということから、中止としたところが多い。

今年の大島山瑠璃寺の獅子舞については、幌をかぶらない形で開催されたとのこと。

花火もほとんどが中止となったが、清内路の手作り花火については、上清内路は中止、下清内路は、薬筒の大三国のみ、技術の伝承のために打ち上げたとのこと。

このように中止のところが多かったが、これが2年3年と続くと、保存継承に大きく影響するということが心配される。

コロナが収束したのちにも、これまでと同じようにできるのか、あるいは新たな工夫が必要なのか、知恵を出していくことが必要。

また、今年度大鹿歌舞伎では、オンラインでの配信という新しい試みをしたが、今後そういったことも考えていくことが必要ではないかと思う。

本日、長野県文化芸術情報発信サイトというサイトが立ち上がった。そこで「～コロナ禍における南信州の民俗芸能～民俗芸能の今と、未来のあり方を考えるために」という特集が掲載されたのでご覧いただきたい。

<和合念仏踊り保存会 平松会長>

毎年外部の方に大勢来ていただくため、そういう方の対応をどうするかが課題であったが、そんな中でも練習だけはやっていこうと取り組んだ。

祭り当日は密を避けるということを第一に考え、狭い場所での舞いは避け、お寺の広い境内だけで実施することとした。無事でできてほしかった。

<黒田人形保存会 高田顧問>

人形浄瑠璃は学芸的なものではなく、住民の心がけやあるべき行動など、庶民生活の題材から切り取ったものが多い。それを上演するということは、人々の心を豊かにしていくという意味で価値があると思う。もっと広めていきたい。

<大鹿歌舞伎保存会 北村事務局>

大鹿歌舞伎は、例年 1,000 人ほどの観客が来るが、その半数以上は首都圏や愛知県などの県外の方であり、昨年度は春の定期公演、秋の定期公演ともに中止とした。小学校、中学校の歌舞伎発表会は、関係者のみの出席で実施した。

今年の春の定期公演は、初めての試みだったが、無観客で事前収録し、オンラインで配信した。また、飯田ケーブルテレビ及び大鹿村内のケーブルテレビにより、期間限定で放送していただいた。

伝承の歩みは止めるわけにはいかないと考えており、大鹿中学校の歌舞伎も、9月末の発表会に向けて、4月から稽古を開始した。

観客と舞台が一つとなって盛り上がる大鹿歌舞伎本来の公演が一日も早くできるように願うばかりである。

<㈱南信州観光公社 高橋社長>

5月の時点では、新野の盆踊り、和合の念仏踊りなどのツアーを企画していたが、ツアーそのものを中止とした。大鹿歌舞伎の特別講座を絡めたツアーについては、飯田下伊那在住の方限定のツアーとして企画し、事前の行動履歴のチェック等十分な感染症対策を実施の上、8名の方の参加で実施した。

3 意見交換

<小川アドバイザー>

(1) ユネスコ無形文化遺産登録に向けての取り組み

風流踊りの登録審査については決まっているが、それ以降はまだ決っていない。

神楽についても、国としてはまだ決定しているわけではない。

文化庁からは全国組織を作ってほしいという話があり、5月17日に遠山霜月祭りの皆さんと天龍村の霜月神楽の皆さんに、神楽の全国組織設立に向けた段取りについて説明をさせていただいた。

宮崎県が中心となって動いており、7月11日に宮崎県で全国組織の発起人会を開催するということが決まっている。遠山霜月祭り、天龍村の霜月神楽の皆さんそれぞれにご賛同いただき、発起人に加わっていただくことが決まった。

早くユネスコ登録に向けて具体的に動けるようにしたいという段階である。

(2) 南信州広域連合4次計画に記されていることについて

南信州広域連合の4次計画の後期が令和2年度から始まっているが、この4次計画の中で民俗芸能の活用ということが明確に位置付けられ、それに基づいて様々な行政組織が地域一体となって取り組みを展開している。

法人組織を今後どう作っていくかということも今後議論していかなければいけない。

(3) 価値を知る・伝える

身近にあるため、民俗芸能にどういう意味があるか、どういう価値があるかということとはあまり浸透していないかもしれない。価値を知ることと価値を伝えるということは事業として考えなければいけない。

ア 地域個性の魅力の発信

オンラインで魅力発信をしていくということについては、ポータルサイトの運営や、

今度立ち上げるファンクラブなど、積極的に進めていく必要がある。地域個性としての魅力をどう発信していくかが大きな課題になる。

伝統野菜は一生懸命やっている地区があるが、こういう食文化は祭り・芸能と密接な関係がある。民俗芸能・祭り以外のものも一緒に発信していくと、関心層が広がると思う。

イ 学術的な価値づけ

今までやってきたとおり、今後も持続してやっていく必要がある。

タレントを使ったプロモーションビデオなどは一過的なものである。

魅力として将来に亘って持続できるものは、学術的な裏付けがしっかりとしたものである。根拠ある魅力発信になる。

パートナー企業の皆様に南信州民俗芸能講座のようなものを作って、企業の方々にも学術的な意味付けを知っていただくなど、いろいろな取り組みができると思う。

ウ 文化財指定への取り組み

文化財保護法の改正で、無形文化の登録制度ができた。

国指定、県指定、市町村指定、登録など、積極的に推し進めていくことが大事。

文化財保護法の枠の中に入ると、公的資金が使えるようになり、決して不利なことにはならない。

市町村は登録制度を作っていないと思うので、条例改正をぜひやってほしい。

長野県はいち早く食文化を文化財の枠の中で扱っている県なので、無形のものにも積極的に取り組んでほしい。

エ 学校教育の副読本の制作

柳田國男記念伊那民俗学研究所で出している本で櫻井アドバイザーが書いた本があるが、こういうものを利用して、小中学生に、地域個性としての祭りや民俗芸能について解説するような副読本を作って、学校教育の中で地域のことが勉強できるような形になるといいと思う。

(4) 新しい公共の創造

パートナー企業制度は、全国的にも注目度の高い制度である。

カレンダー制作に対してこんなに寄付が集まるとは驚いた。

企業の社会貢献ということを、多くの企業が考えるようになりつつあるのだと思う。

そういうことを踏まえると、官と民と企業が一体となって、地域の公共的な文化振興の役割を担っていく、新しい公共の創造ということを考えていきたい。

今までの公共は自治体だけであったが、もうそういう時代ではない。

民も企業も一体となって地域社会の持続を考える。そこに祭りや芸能を位置付けていく。

その接着剤の役割がパートナー企業制度と言っていると思う。

昨年度宮崎県で、実績があるとサポーターとして認定する神楽サポーター制度を立ち上

げた。今後こういう社会制度を採り入れる地域が増えてくると思われる。

<笹本アドバイザー>

今まで地元で活躍されてきた皆様に心から敬意を払う。コロナ禍の中でもこれだけのことがされているということは、自慢すべきことだと思う。

昨年、長野県立歴史館において、櫻井アドバイザーを講師に「南信州民俗芸能活性化イベント in 長野県立歴史館」を開催していただいた。

その前の年は安曇野市で行われたが、須坂市長が、ぜひ須坂市でもやってほしいという声を上げた。

長野県内でも、今までこういう活動は例が無く、しかもこの内容は他の地域でも大変参考になるということがわかってきた。

この活動自体が全国、長野県全体に大きな影響を与えているということを確認しておきたい。

小川アドバイザーが言われた、伝統野菜の話について、各地域で伝統野菜に目を向け始めているが、信州大学をもっとうまく利用した方がいいのではないかと思った。

飯田市上村の下栗芋は農学部がウイルスフリーにしてみたくさん作れるようになった。このように地元にある大学と共に動くことによって、さらに新しいことができるのではないかということをもった。

上伊那では、KOA 株式会社の向山会長が中心となり、企業、市町村教育委員会、大学などが連携して、地元に対する郷土愛を深めようとする取り組みとして、郷土愛プロジェクトの取り組みが行われている。

長野県立歴史館でも、KOA の日を1日設けさせていただき、KOA の社員が子どもたちを県立歴史館へ連れて来てくれていただいたり、一緒に活動したりしている。去年はコロナ禍の中だったので、遠隔授業を行った。

こういった取り組みのように、パートナー企業に、より積極的に参加していただく方策があるのではないかと考えている。

私たちにとって、芸能や文化は、私たちが生活していく上でいかに大切なものであるかということをも、コロナ禍で実感した。

コロナ禍を契機に、消えていくのではなく、復興していけるように努力していきたいと思う。

<宮田アドバイザー>

文化財保護法は4月に改正案が成立し、7月から施行される予定である。

無形文化財に対して、今までなかった登録制度が盛り込まれる。

恐らく無形民俗文化財でも、指定ではなく、登録というものも増えていくものと思われる。

それより重要なのは、地方で条例を改正するということだと思う。

地方公共団体は、条例で登録制度を設ける場合、文部科学大臣に国の登録を提案できるという制度ができた。

今まで無形民俗文化財は、地方からの推薦や提案といったものは制度上全くなかったが、この改正によって、地方から推薦や提案する道ができたということは非常に大きなことだと思う。

ぜひ積極的な登録を、南信州でも考えていただき、国に提案するような積極性を持っていただきたいと思います。

風流踊りが、ユネスコ登録に向けて来年度審査される。

既にユネスコに出して残っているものがあと3件あり、そのうち2件は南東の芸能、つまり沖縄奄美の芸能であり、恐らくそれらは一つにまとまった形での登録となる。もう1件は木造彫刻修理という保存技術である。これら3件の後については全く未定の状況である。

今までは国指定になったものを出していくという方針だったが、今後は登録というものも視野に入ってくると思われる。

今までは芸能の種類といった文化財のカテゴリー別のグルーピングがされていたが、今後は、南東の芸能というのが地域的なまとまりでユネスコに出ていくように、地域文化としてのまとまりも、1つの選択肢に入ってくる。そうした場合に南信州の芸能というまとまりも、今後有り得ると思う。

去年は通常の形で行われた芸能が非常に少ないという話を聞いたが、民俗芸能は、人と人とが密接につながり合っていくことが特徴であり、いわゆる三密は避けがたい。

コロナ禍の収束が見通せない中で、今後どのように芸能を行っていくのか。あるいは1回2回と休止したことで伝統そのものが途切れてしまわないかということは、私も危惧している。

ただし、そういった状況の中でも、地域の民俗芸能を支援していこうというパートナー企業が新たに19者も増え、地元としては、支えていこうという熱量は落ちていないということに、力強く感じた。

<柳田國男記念伊那民俗学研究所 松上事務局長>

コロナ禍の中で、当研究所はなかなか活動ができなかったが、逆にオンラインを使用するなどの広がりが生まれたので、そういう新しい部分は追及していきたい。

<南信州文化財の会 岡田会長>

民俗文化は人と人との密接な繋がりが特徴ということで、コロナ禍の中での活動が非常に制限される。それをいかに打破するか。1つとしてオンラインの利用も良いと思った。

南信州文化財の会は、南信州のあらゆる文化財を保全し、活用するというのが活動内容

である。今日この会議に参加して、もう少し積極的に民俗文化へ参画していかなければいけないと感じた。

<南信州交流の輪 関代表>

これまでの話の中で、食文化の話が取り上げられていたことがすごく嬉しい。
お祭りには食文化が関係している。飯田下伊那の食文化は残していきたいし、学校の子
どもたちにもぜひ一緒に作っていただいたり食べていただいたりして、残していきたい
と思っている。ぜひ学校教育の中にも食文化の学びを取り入れていただきたい。

<阿智村 熊谷村長>

この協議会がこれまで多くの方のご協力を経てこのように盛り上がってきたということが
すごく嬉しいことだと感じた。
今日は多くの方からコロナ禍は逆にチャンスだという話があったので、行政としても考
えていかなければいけないと感じた。
飯田お練り祭りは、多くの方に民俗芸能を知っていただくチャンスだと思うので、協議
会としても、お練り祭りの機会を活かせると思い思った。

<南信州地域振興局 丹羽局長>

私はパートナー企業制度を立ち上げる時の担当課長だった。制度が立ち上がって5年経
ったが、情報発信や、企業で勉強していただくということについて、企業の皆様に意見
を聞く必要があると思う。
また、伝統芸能に携わっている皆さんが企業に求めていることも確認し、企業と伝統芸
能を行っている皆さんを繋ぐということも大切だと思っている。
郷土愛プロジェクトについては、上下伊那で推進していくこととし、昨年度から具体的
な取り組みを進めるようになった。上伊那、下伊那がそれぞれが取り組んでいるが、そ
の取り組みは様々なので、お互いに学び合うということで、それぞれの地区へ行き、そ
のプロジェクトを見るということをしている。今年3月には、郷土愛プロジェクトを SNS
で発信するということで SNS を公開した。夏には、研修会も計画している。
その中では、輝く大人の生き生きと生きる姿をどう見せていくかが非常に大切だと考え
ており、伝統芸能に携わっている皆さんの姿を子どもたちに伝えるということも考えて
いきたい。
伝統野菜について、長野県の 77 種類の伝統野菜の内、25 種類が南信州の野菜である。
ご指摘いただいたように、様々な文化を組み合わせで発信していくということが大切だ
と思ったので、そういう面も含めて検討していきたい。

<長野県教育委員会文化財・生涯学習課 久保課長>

文化財の研究者や担い手が高齢化してきて、これから先どうするのかという話をよく聞く。伝統文化はある意味では人々のアイデンティティを形作るということに非常に大きく影響するものだと思う。今後もどんどん国際化が進む中で、自分が生まれてきている自分の歴史を語れるような人を育てていくことは、非常に重要だと認識している。飯田下伊那の取り組みを1つのリーディングケースにして、長野県全体の文化の振興を考えていきたい。

以上